

「もったいない」を形に、そして「食と福祉を結ぶ」
社会への思いやりを根幹に、経営と向き合う

株式会社HYK ※HⅡ「北海道の」、YⅡ「やる気を」、KⅡ「形に」(代表取締役) 上保木聡志



『マドマドレ』は、米粉100%のお菓子を中心に扱う『ベジタブル』を通じ、障がいをお持ちの方へ働く機会を！皆がハッピーを感じられる社会づくりへ貢献

野菜移動販売でスタート、自前の青果店開店へ

サラリーマン生活を捨て、株式会社HYKを興して独立を果たしたのが平成23年、35歳を迎えた年のことでした。20歳の頃に縁あって移り住んだここ札幌市での暮らしも10数年が経ち、すっかりこの地の人間に。そろそろ別な生き方で地元のお役に立つていくべきではないのか…という想いに駆られたのが、独立のひとつの

きっかけでした。折しも起こった東日本大震災の惨状を目の当たりにし、やるべきことは今やっておくべきではないかと、自分を奮い立たせた面もあったように思います。

自分にやれることは何か。さほど元手をかけずともできることは何なのか。考えた挙句に目を付けたのが、野菜の移動販売でした。とはいえ、仕入先農家さんに知り合いもなければ、移動販売先ルートに目算があるわけでもありません。文字どおりのゼロからのチャレンジでした。前職などを通じて培ってきた自分自身の営業力を信じて、ひたすら開拓に奔走する日々でした。

そんな折、たまたま知り合った大手ホームセンターチエーンのパイヤーさんから「ぜひ一緒にやりましょう」と、お誘いが。ありがたくお受けすることにしました。『上保木青

果店』の看板を掲げて本格スタート。結果的にわずか1年弱の間で、道内13カ所のチエーン店舗への出店が叶います。売上げが立ち、会社の経営基盤もしだいに固まっています。

翌24年、札幌市清田区内に初めて自前の店『上保木青果店』を開店。一方、手がけてきた移動販売からは撤退の方針を固めます。燃料費の高騰や人手の確保など、移動販売の運営上の問題点が当社の経営面に重く、厳しくのしかかってきたためです。こ



のとき、きつちりと引き際を見定め決断したことで当社が今日まで、生き延びてこられたのではないだろうかと考えています。

乾燥野菜、野菜パウダーへと商品領域拡充

青果店を切り盛りしていくなかで気付かされたことのひとつが、フードロス問題でした。生野菜は、どんなに売る努力をしたところで、多少の売れ残りは出てしまいがちです。するとたちまち傷んでしまい、破棄せざるを得ない状況に。野菜そのものにも、生産農家さんにも申し訳ない。そんな気分が陥ってしまったものです。



なんとかフードロスを防ぐ手段はないものか。従来からの生野菜だけの売り方を続けていつても、もはや限界があると考え、仕入先の某農家さんで見かけた乾燥野菜づくりに着目。早速、設備を導入し、新規事業の位置づけで生産・販売を開始します。自前の青果店を構えてから、わずか2カ月ほどしか経っていない頃の、大きな出来事でした。

乾燥野菜事業の推進に伴い、規格外野菜も大歓迎。フードロス問題の解消に、ここでも役立っています。むしろ、仕入先農家さんからは大変お喜びいただいています。

また、引き続き平成28年からは、野菜パウダーの生産・販売もスタート。



フードロス問題解消に向けて、多角的な取り組みを進めています。

就労継続支援B型事業所『ベジタブル』併設、運営

平成27年より、障がいをお持ちの方たちへの働く機会の提供を主目的に、就労継続支援B型事業所『ベジタブル』の運営にあたっています。障がいがある方がなろうが、誰かの、あるいは何かのお役に立つことができたら、きつと幸せな気分になれるはず。そんな私自身の思い入れから立ち上げたのが、この施設です。

職員と一緒に野菜・果物の袋詰め、乾燥野菜・野菜パウダーの製造、値札付けなどの作業をこなしてもらってきました。現在では、主力商品となったマドレーヌやロールケーキ類の製造、さらには当社オリジナル紙袋（Eコバッグ）などの製造にも励んでもらっています。

新型コロナウイルスに伴う行動自粛期間中は、原則的にリモートワークでの対応をとらせてもらっていましたが、社会がやや落ち着きを取り戻し始めた昨今は、職場に集合しての作業も一部再開。笑顔と元気に直接、出会えることの嬉しさを職員たち皆と感

じているところです。

札幌マドレーヌ本舗

『マドマドレ』 ——いま注目の菓子舗

平成30年には菓子製造許可を取得し、菓子づくり領域へと乗り出します。3〜4年もの開発期間をかけ、商品化にこぎつけたのが、北海道産ゆめぴりか100パーセント米粉使用のマドレーヌならびにロールケーキです。独特な食感と小麦粉不使用・グルテンフリーの安心感で熱烈的なファンを引き寄せています。令和3年になって、店名変更を実施。札幌マドレーヌ本舗『マドマドレ』としてのリスタートには、話題と注目が集まりました。

米粉のクッキーも含めた当社商品に共通する特徴の一つが、その賞味期限の長さです。なかでもマドレーヌは、240日まで延ばすことができました（現在、365日をめざして商品改良に取り組み中）。フードロス削減への取り組みの成果が、ここにも。企業スローガンに掲げる、もったいない、を形にの精神があらわれています。

また賞味期限の長さには、別の意義も見出すことができます。実は、現



場で作業にあたる職員、スタッフさんたちの働き方改革にもつながっているのです。つくれるときに、つくれるだけつくっておき、即出荷分以外はストックしておけばよいのですから、残業や休日出勤などは無縁の働き方ができるのです。とりわけ障がいをお持ちの方たちには、ノルマのようなものに追い立てられることなく、その日の気分に合わせたペースで作業にあたっていただけるのは、とても大きなメリットといえましょう。当社のごうした取り組みが評価され、「健康経営優良法人2022」・「同2023」の認定も。福祉事務所を運営する法人として2年連続でこの認定を受けるというのは、とても珍



しい事例だそうですね。いつ、どこで起きるか分からない大災害の際、当社で手がける菓子類が被災地支援のお役に立てたなら、この上ない喜びであろうと思っております。というのも当社自身、平成30年9月に起こった北海道胆振東部地震で被災し、店舗・事務所の移転を余儀なくされた経験が（現在地へは、同年11月に移転）。被災地に、被災された皆さんに寄り添っていくことを、企業使命のように感じています。

海外への輸出ルートも着実に広がるなど、業績はこのところ比較的堅調に推移しています。ただ、やみくもに事業規模を追うような経営に手を染めるつもりは、まったくありません。まずは目の前のお客様各位、一緒に働く仲間たちを大切にしたい。だから無理は絶対に避け、やるべきことだけをやっていく。このスタンスで経営に臨んでいます。もちろん、市場の変化に対応した商品開発やサービス提供など、おろそかにしてはならない取り組みも十分、認識しています。もう一つの企業スローガンに掲げる「食と福祉を結ぶ」の枠から外れることなく、その先へと歩を進めてまいります。



上保木 聡志 かみほき さとし

昭和52年生まれ、岐阜県高山市出身。高校卒業後、勤めた警備会社での転勤に伴い、北海道札幌市へ移住。その後、食品関連会社へ転職し販売職に携わる。平成23年、同社を退職し、同市清田区内に株式会社HYK設立（35歳）。野菜の移動販売を皮切りに青果店経営、乾燥野菜製造販売、菓子製造販売などへと事業展開。この間、就労継続支援B型事業所を立ち上げ、障がいをお持ちの方たちへの働く機会の提供にも注力している

代表者 代表取締役 上保木聡志
 設立 平成23年
 事業内容 札幌マドレーヌ本舗「マドマドレ」、ならびに就労継続支援B型事業所「ベジタブル」の運営
 所在地 〒004-0802 北海道札幌市清田区里塚2条6-1-3 里塚ノースヴィレッジ1F
 電話 011-557-0369
 URL <https://www.madomadore.com/>
 資本金 140万円
 従業員数 3名